

第35回（会津高等学校野球部監督 皆川俊哉）  
『何のために』中村文昭 2014年 サンマーク出版

この度、書籍リレーを受けまして、私が影響を受けた本を1冊紹介したいと思います。

突然ですが、指導をされている先生方は何のために日々生徒を相手に野球の指導をされているのでしょうか。自分の野望のため、生徒の夢を叶えるため、生徒が社会に出てから強くたくましく、社会に有為な存在として活躍していけるような人材育成のため、勝利のため・・・その本質を忘れずに指導することは簡単なようで難しく、その時の感情のままに怒りをぶつけてしまったり投げやりになったり偏った指導になってしまったりすることがあります。指導をすることは本当に難しいと年を追うごとに感じているところですが、物事の本質的なことに気づかせてくれる本に出会うことができました。以下、紹介です。

○不安を取り除く

「不安がなくなると心にゆとりが生まれ、人を思いやり、やさしい言葉をかけることができるようになる。」

こうすると上手くいくとか、○○なんだからがんばれ！とか、そういった言葉を指導者はかける前に、選手がどんな不安を抱えてプレーしているのか、何ができなくて困っているのかを指導者はまず把握し、その不安や困っていることを取り除いていくことが重要なのかと感じました。選手個人を一般論に当てはめず、それぞれの選手が抱える不安や悩みを吐き出させ、自覚させ、取り除いていくことをしていこうと思えました。

○「何のために」動くかの理由がはっきりわかっている人は強い

「なんでオレが雑用しなきゃならないんだ」「オレはこんなことするために生きてるんじゃない」といったように、面倒くさいことを煙たがっている人は、その行動の意味や意義を知らない、「何のために」を知らずに生きている。

野球というチームスポーツに「個人の勝利」は存在しない。チームが勝つためにできることは試合に出て打つ・守るだけではない。試合に出ている者が100%力を発揮できるように、ベンチに戻ってきた最高の笑顔で迎え入れて鼓舞し、飲み物を用意する。雑用もサポートも、「それをやることでベンチにいるオレにもチームの勝利に貢献できる！」という「何のために」が分かれば、前向きに取り組むことができると思いました。

野球に限らず、社会に出ても自分のやりたいことができるとは限らず、やりたくないことも雑用のようなこともすることがありますが、「何のために」を見出して取り組むことが、生きていくうえで大切だと思いました。

その他、上昇気流に乗れる・下降スパイラルに陥るものの言い方、発言集など分かりやすい事例で、普段の生活から意識を変えていける術が掲載されています。

○著者の紹介

全国の引きこもりやニートを集めて夏は北海道、冬は沖縄で農業を営んでいる（耕せにつぼん）。障がい者を中心に経営するレストラン兼ブライダル「クロフネカンパニー」社長。

Youtubeで著者の名前を検索すると面白い話がたくさん掲載されています。運転中などに聞き流す形で聞いてみることをお勧めします。